



さんが

第 七 六 号

平成 二 五 年
西 曆 二 〇 一 三 年
正 月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一
TEL 〇七五-六三一-二二七二
FAX 六三一-五七二五
E-MAIL sanga@tounji.net

謹 賀 新 年

玉龍山東運寺



平成に入って、干支が三廻り目に入りました。
ふたつ前の巳年は、バブル経済の絶頂期。ひとつ前の巳年は、アメリカ同時多発テロが起きました。さて、今年はどうな一年になるのでしょうか。いつも感謝で眠れる毎日がつづきますように。
ご本尊さまのもと、東運寺も新しい年をむかえました。檀信徒皆さまのご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

お稚児さん募集！

五月二十六日(日)朝、新住職の行列と
いっしょに歩いてみませんか？
四歳から小学生までのお子さまを、
お待ちしています。くわしくは、
春彼岸号にてご案内します。



「晋山式（しんさんしき）」に向けて（3）

式のふたりの主人公

晋山式では、ふたりの和尚が中心となって法要が進んでいきます。

ひとりは新しい住職。

もうひとりは「首座（しゅそ）」と呼ばれる、若い和尚さんです。

曹洞宗では一人前の和尚となるのに、三度「出世の式」をする必要があります。

一度目はお坊さんの仲間入りをする「得度（とくど）」。
二度目が首座となって、それまでの修行の成果が試される「首座法座（ほうざ）」の式。三度目が新しい住職として就任し、その力量を披露する「晋山式」です。

この五月、ふたりの和尚が、それぞれ二度目と三度目の「出世の式」を経験します。とくに「首座」は、一生に一度しかできず、一世一代の晴れ舞台です。

東運寺では、亀岡にあるお寺のお弟子さん（大学一年生）が、この首座和尚さんをつとめます。

晋山式では現代語も使った「新住職との禅問答」が、首座法座では若いはつらつとした「首座との禅問答」がやりとりされ、式全体のハイライトとなります。ふたりの和尚さんはこの式を縁として、お坊さんの位をひとつ上がるのです。ぜひともご注目ください。



ご心配をいただいていた東堂（先代住職）ですが、体調も戻り、日常ほぼ不自由なく過ごしております。

元気でおりますので、どうかご安心ください。

※晋山式に伴う工事が行われています

本堂の右奥側に収納庫を作っています。お墓入り口にあるお手洗いを、洋式にする工事もあります。最中にご迷惑をおかけし、申し訳ありません。